



【指導事例 1】

1 主 題 「困難を乗り越えた先に」〔希望と克己、努力と強い意志〕

2 ねらい

町村敬貴の生き方に触れることを通して、より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする心情を育む。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、全国の酪農家から「牛づくりの神様」と慕われた町村敬貴の功績に触れることを通して、生涯をかけての理想や目標を持ち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けようとする心情を育てることをねらいとしています。

前半では、酪農に対する夢をもつ過程とともに、渡米した先で次々と直面する困難とその困難を強い意志で乗り越えようとする町村敬貴の姿について触れています。

後半では、帰国後、次々と直面する困難に対しても、不屈の精神で自分の信じる道を突き進み、酪農の発展の礎を築いた町村敬貴の様子について触れています。

指導に当たっては、日常生活で目標を達成した経験や、現在目標に向かって努力している自身の姿を振り返らせ、目標の達成には何が必要であるかなど問題意識を自覚させるとともに、町村敬貴が困難を乗り越えてきた思いを、多面的・多角的に話し合い、より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げるということについて深く考えさせることが重要です。

4 展開例—①「町村敬貴の功績に触れることを通して、着実にやり抜く強い意志をもつために大切なことについて考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の夢や目標について話し合う。 ○ これまでに目標に向かって努力したことや現在、目標に向かって努力していることはありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭に向けて、学級の仲間意識を高めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活に関わることを問いかけ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「牛づくりの神様」を読み、話し合う。 ○ 敬貴の人生にはどんな困難がありましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・案内人にお金を騙し取られて無一文になった。 ・樽川地区で牧場を始めたが、うまくいかなかった。 ◎ 江別の土地が再起不能で、宇都宮にも苦言を呈されたのに敬貴はその土地で牧場を始めました。そこにはどのような思いがあるのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・希望を捨てずにやり遂げたい。 ・故郷である北海道で酪農を成功させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の社会的な情勢を確認しながら、敬貴が酪農に尽力する願いや思いを話し合い、人間理解を深めさせる。 ・敬貴が困難を乗り越えてきた意思の強さについて、多面的・多角的に話し合い、価値理解や他者理解を深めさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 人間としての生き方について考える。 ○ 敬貴の生き方について、あなたはどう感じましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・理想や目標をもつことは困難を伴うが、大切なことに改めて気付いた。 ・大きな目標はもてないが、目の前の小さな積み重ねを大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向けた強い意思について、自分の人間としての生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。 ■ 困難や失敗に屈せず、挑戦し続けやり遂げようとする心情の大切さについて、自分との関わりで、考えを深めている。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の説話を聞く。 ※教師の体験談や過去の教え子の活躍やスポーツ選手などの功績を紹介し、その夢や希望が実現したエピソードについて話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の心に残る努力の思い出を語ることにより、困難や失敗を乗り越えてやり遂げようとする心情が育まれるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「誇りある生き方」〔よりよく生きる喜び〕

2 ねらい

町村敬貴の生き方に触れることを通して、人間としての誇りをもって生きることの喜びを見出そうとする態度を育てる。

3 展開例—②「町村敬貴の生き方を通して、『生きる喜び』から『よりよく生きる喜び』へと道徳的価値の自覚が深める展開」

4 主な学習活動

(1) あなたにとって「生きる喜び」とは何ですか。

- ・友だちと楽しい時間を過ごすこと。
- ・おいしいものを食べること。
- ・目標を立てて努力すること。

(2) 敬貴の人生は幸せだったのだろうか。なぜ、そう思うのか。

- ・「牛づくりの神様」と言われ、世の中から認められたから、幸せだった。
- ・自分で決めたことを最後までやり抜いたから、幸せだった。
- ・年をとっても働き続け、様々な苦勞をしたから、幸せではなかった。

(3) あなたにとって『『よりよく』生きる喜び』とは何ですか。

- ・自分のためだけではなく、誰かのために役に立つ生き方をすること。
- ・一度決めたことを最後までやり抜くこと。
- ・困難なことがあっても前を向くこと。

活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 社会科

地理的分野の日本の様々な地域の学習において、地域の産業が果たす役割を考えるために、授業の導入で本教材を活用することを通して、地域の産業の歴史的背景に関心をもつことができるようにする。

■ 社会科

歴史的分野の歴史のとらえ方の学習において、身近な地域の歴史を調べる活動を行う導入として本教材を活用することを通して、地域の歴史への関心を高めることができるようにする。

■ 特別活動（学級活動）

学級活動の社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成や、主体的な進路の選択や将来設計に関する学習において、本教材を活用することを通して、生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子と日常生活の中で生徒が積極的に働いている活動の様子を関連付けて家庭に伝えることを通して、意欲を高めることができるようにする。

また、参観日などの公開授業において、本教材を活用することを通して、保護者等が家庭や地域で生徒の豊かな心を積極的に育もうとする意欲を高めることができるようにする。